

一般社団法人 日本鉱物科学会
2024 年度 第 1 回臨時理事会 議事録

- 【1】 招集年月日：2024 年 11 月 5 日(火)
- 【2】 開催年月日及び時刻：2024 年 11 月 19 日(火) 16：20～18：15
- 【3】 開催場所：広島大学理学部 井上研究室
739-8526 広島県 東広島市 鏡山 1-3-1
(ZOOM Meeting によるオンライン会議)
- 【4】 理事総数および定数：総数 22 名，定足数 12 名
- 【5】 出席理事数：20 名
会長：井上 徹 副会長：中村 美千彦
理事：秋澤 紀克，安東 淳一，大藤 弘明，鍵 裕之，片山 郁夫，栗林 貴弘，黒澤 正紀，佐久間 博，瀬戸 雄介，DAS Kaushik (ダスカウシク)，辻森 樹，土屋 旬，富岡 尚敬，中野 伸彦，M. Satish-Kumar (マドスーダン・サティッシュ・クマール)，三河内 岳，森下 知晃，芳川 雅子
- 【6】 欠席理事数：2 名 河上 哲生，永嶋 真理子
- 【7】 出席監事：永井 隆哉
- 【8】 出席幹事 (理事以外の幹事)：(理事以外の幹事，委員長等報告事項報告者)
興野 純 (和文誌編集幹事)，阿部 なつ江 (会員幹事，地惑連合連絡担当)，
小松 一生 (庶務副幹事)，斎藤 哲 (広報幹事)，
西原 遊・福士 圭介 (地球惑星科学連合学会選出プログラム委員)

【9】 議事概要

井上会長の発議により議長を理事の互選で選ぶことになり，安東理事が議長に選出された。次に，決議定足数と開始時刻における出席理事数の確認を行い，理事 18 名の出席を確認したので，定款 30 条により理事会が成立した (開始時に欠席であった 2 名の理事は，会議開始後約 20 分遅れで出席した)。このことを受け，安東議長は WEB 会議システム(ZOOM Meeting)を用いての理事会開会を宣言した。また，WEB 会議システムの通信状況(出席者全員の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり，適時的確な意見表明が互いにできる状況)に問題がないことを確認し，2024 年度第 1 回臨時理事会を開始した。会議に先立ち，小松庶務副幹事が書記として選出された。

I. 報告事項

1. 予算執行状況 (富岡理事・会計幹事)

富岡会計幹事より，予算執行の報告がなされた。

- ・ 予算執行は問題ない。
- ・ Elements 購読料支払いに関して以下の報告を行った。

Elements 2024 年 V.4-6 の購読料 787,730 円 (1 USD=144.82 円) を 2024 年 10 月 2 日に振り込んだ。Elements 2024 年 V. 1-3 の購読料は 856,910 円 (2024 年 4 月の振込分) だったので、2024 年度分の購読料は 1,644,640 円となる。予算は 1,780,000 円としているため問題ない。

2. 決算書の作成作業 (富岡理事・会計幹事)

富岡会計幹事より、決算書の作成作業に関して以下の報告がなされた。

決算書作成は、7/31 の会計締めから会計監査日 (8 月下旬) までの 3 週間程度であり、例年、顧問 (堀井公認会計士事務所) に負担がかかっている。この状況改善のため、上半期分の収支情報を事務局より顧問にお送りし、前倒処理していただくことになった。

※上半期分の決算書は、年度末のものと独立に作成する事はないので、追加料金は生じない。

3. 会員報告 (阿部会員幹事)

阿部会員幹事より、2024 年度第 1 回定例理事会(2024 年 9 月 13 日)以降の会員動静について以下の通り報告がなされた。

退会者 4 名 (シニア会員 1 名, 一般会員 1 名, 学生会員 2 名)

資格停止 4 名 (会費 2 年未納のため, 一般会員 2 名, 学生会員 2 名)

この結果、2024 年 11 月 19 日現在の会員数は

849 名(2024/9/13 定例理事会) - 4(退会) - 4(資格停止) = 841 名 となった。

4. JMPS 現状報告 (M. Satish-Kumar 英文誌編集幹事)

M. Satish-Kumar 英文誌幹事より、2024 年 8 月 24 日第 3 回定例理事会報告以降の投稿、編集及び発行状況が議事資料に沿って報告された。

・2024 年投稿件数 42 件

編集状況：早期公開準備・印刷準備中；3 件、査読中：8 件、返却中：13 件

発行状況：

・119 巻 1 号電子ジャーナル

原著論文 22 編 Letter3 編 計 242 頁

・119 巻 ANTARCTICA 号電子ジャーナル

原著論文 2 編 計 23 頁

・119 巻 1 号 (2024 年) 2024 年 8 月 24 日以降の電子ジャーナル公開状況は、8 件

・2023 JMPS Impact Factor: 0.9

(2022⇒0.7, 2021⇒1.041, 2020⇒0.72, 2019⇒0.764, 2018⇒1.472, 2017⇒1.030, 2016⇒0.409, 2015⇒0.648, 2014⇒0.742, 2013⇒0.656, 2012⇒0.589)

5. GKK 現状報告 (興野 和文誌編集幹事)

興野和文誌幹事より、2024 年度第 1 回定例理事会(2024 年 9 月 13 日)以降、2024 年 11 月 7 日現在までの状況が議事資料に沿って報告された。

5-1. 編集状況報告 (2024年9月2日～2024年11月7日現在まで)

(1) 発行状況：53巻1号電子ジャーナル3編公開（以下、発行順）

・原著論文「長崎県雲仙地獄における熱水変質帯の分布と温泉水による酸性変質作用」坂本光瑠, 宮本知治, 石橋純一郎, 松島健, 森啓悟

・日本鉱物科学会研究奨励賞第34回受賞者受賞記念研究紹介「地球外試料から探る宇宙風化に伴う固体物質の変化」松本徹

・原著論文「八方尾根周辺のかんらん岩における接触変成直方輝石の生成：礫からのアプローチ」荒井章司, 江島輝美, 高橋康, 太田勝一, 輪湖恵美, 石丸聡子

(2) 現在受理論文：1編（総説[講義シリーズ]）初校校正中

(3) 現在査読中論文：2編（総説[講義シリーズ], 原著論文）

5-2. 管理委託契約約款の改定に係る説明会（興野会員が参加）

著作権の利用形態について：

現在著作権の利用形態には以下の4つがある。1) アナログ複写複製…紙媒体のコピー, 2) デジタル複写複製…電子ファイルのコピー, 3) 転写複製…引用の範囲を超えての既存の出版物の図表掲載, 4) AI利用…AIにデータベース等を学習させ生成された要約等。今回、現行の著作権法に「4のAI利用」が追加された。

権利委託手続きについて：

日本鉱物科学会は、学術著作権協会と管理委託契約を締結している。著作権管理委託申込書の更新が必要である（著作権法に「4のAI利用」が追加されたため）。既に管理委託著作物リスト（JMPS, GKK）が事務局に送付され、会長により承認後、返送が済んでいる状態ある。

5-3. 依頼原稿カテゴリー班の進捗状況報告

順調に各班で進められているとの報告がなされた。

5-4. 英語論文の取り扱い

「岩石鉱物科学」投稿規定に「依頼原稿に限り、母国語が日本語でない著者については、英語での投稿を認める」の一文を加えることとなった。

5-5. 引用文献のGKKの体裁

引用文献の体裁をJMPSに合わせることとなった。またこの改訂を「岩石鉱物科学」投稿規定に反映させることとなった。

5-6. 鉱物・岩石名表記法のルール化

GKKには岩石鉱物の表記のルールがないことが問題となっており、少なくともGKKの投稿規定には表記法に関するルールはあった方がよいとの方針から、どのようにルール化するかについて継続審議となっている。

5-7. 岩石鉱物科学の英語名称

鉱物科学会の HP の岩石鉱物科学の英語名が GKK となっているが、英語名は GKK ではない。正式名は、「Japanese Magazine of Mineralogical and Petrological Sciences」(J-Stage が使用している GKK の英語名) 鉱物科学会の HP の岩石鉱物科学の英語名は「Japanese Magazine of Mineralogical and Petrological Sciences ; Ganseki Koubutsu Kagaku (GKK)」と二つ表記する。

5-8. AI による専門用語の翻訳

現状、翻訳 AI が専門用語を翻訳できないという問題があるが、日本語の専門用語（特に鉱物名）にカッコで英語を付してはどうかという意見が上がっている。

この件に関して、井上会長より「DeepL には、日本語の専門用語が入っていないのか」との質問があった。興野和文誌幹事は「web 上にある専門用語に紐づけされておらず、間違った訳・鉱物名が訳されることがある。」と返答した。

本件については継続審議となっている。

6. JpGU2025 のセッション（西原 JpGU 学会選出プログラム委員）

西原 JpGU 学会選出プログラム委員より、JpGU2025 のセッションに関する報告がなされた。

- ・例年どおり「岩石・鉱物・資源」「鉱物の物理化学」が提案されており、鉱物科学会の共催セッションとして認める予定である。
- ・これまで「岩石・鉱物・資源」は、旧三鉱学会に由来する 3 分野（鉱物科学会（岩石）・鉱物科学会（鉱物）・資源地質学会）の 3 人と地質学会の岩石部会の 1 人の合計 4 人のコンビーナで運営しており、そのうちの旧三鉱学会の 3 人が毎年輪番で代表コンビーナを務める形であった。コンビーナ間の相談により、今後は地質学会の 1 人を含めた 4 人のローテーションに変更することとなった。

7. Elements Executive Committee Business Meeting の報告（井上会長）

井上会長より、Elements に関する報告があった。

- ・Elements の発行に関しては、順調に進んでいる。
- ・2023 年に通常の 6 号に加えて 3 号追加し（合計 9 号）、これまでの発行の遅れを取り戻した。2024 年は予定通り 6 号が発行され、通常に戻っている。
- ・返答の締切が 2024 年 12 月 15 日とする下記の依頼があった。1) 3) は承認、2) は JAMS からの推薦は無と返答する。

1) 2025 予算の承認依頼：

2025 年の Elements の通常予算に加えて、Goldschmidt 会議（プラハ）で Elements の 20 周年を祝うためのレセプションとギャラリー展示を 1 回行うことが提案されている。チケット販売やスポンサーシップによる収入で賄えない費用は、Elements の投資資金から支出される。各学会は、学生用チケットの助成金として寄付を行うこともできる。寄付の目安は 1000 ドル。

2) Mineralogy の主幹編集者(2026–2028)の推薦依頼

3) 米国地質学会 (GSA) の鉱物学・地球化学・岩石学・火山学 (MGPV) 部門の「Elements 関連組織申請」承認:

Elements 関連組織とは Elements 参加学会とは異なり, Elements の購読料を支払わないため Elements を受け取ることはできないが, 1 ページあたり 800 ドル (2025 年) のページ料金で Elements の「学会ニュース」コーナーに記事を掲載することができる. GSA-MGPV は厳密には学会の「部門」だが, 会員数は多く (約 1500 人), Elements 関連組織としての参加は GSA 評議会により承認されている. Elements には現在, 他に 3 つの関連組織 (IMA, EMU, AIPEA) がある.

8. 理事会・幹事会メーリングリストの有効利用 (井上会長)

井上会長より, 理事会・幹事会のメンバーメーリングリストを作成したので, 有効に活用していただきたいとの報告があった.

9. 準国石選定の提案について (井上会長)

井上会長より, 準国石選定に関して以下の報告があった.

・国石選定の最終候補となった「花崗岩 (花崗岩質岩およびそのペグマタイト)」、「輝安鉱」、「自然金」、「水晶 (日本式双晶, 瑪瑙, 玉髓, 碧玉を含む)」を準国石として認定する方向で, 検討したい. これらを準国石とすることで, 本学会の知名度も上がることが期待できる.

この件に対して, 以下の意見がなされた.

- ・大藤理事: 「鉱物・宝石に関する 50 の質問」という書籍の執筆依頼が来ている. これらの 4 つの鉱物を挙げると知名度があがる.
- ・中村副会長: 「国石」を決める際に, 「ひすい」と「水晶」で決選投票が行われた過程を考えると, 水晶は準国石と呼んでもよいのではないか.
- ・安東理事: 井上会長がワーキンググループを立ち上げて短時間で決定する方向でどうか. ワーキンググループを立ち上げることの議論は理事会で行う必要があるので, 今回の理事会のその他の審議事項で取り上げる.

10. 会員カテゴリーについて (井上会長)

井上会長より, 会員カテゴリーに関して将来企画委員会に検討を依頼中である旨の報告がなされた.

この件に対して, 以下の意見がなされた.

- ・中村副会長: 個人情報のポリシーは学会で定めているが, だれがどこまでアクセスできるかは定めていない. 会員カテゴリーの変更に伴って定めた方がいいと思うが, 阿部会員幹事お一人に任せるのも負担が多い. 事務局に任せるのも負担になる.
- ・阿部会員幹事: 個人情報に関して, カテゴリー毎の人数に関する情報が欲しい.
- ・中村副会長: 利用目的によってはアクセスできるようにしてほしい. 火山学会ではいつからいつまでだれがアクセスする, という形にしているがやや面倒である.

上記の会員情報へのアクセスに関しては、安東庶務幹事より堀井公認会計士事務所に問い合わせ、検討することとした。

11. 国立大学教育研究評価委員会等専門委員の候補者の推薦（井上会長）

井上会長より、熊本大学西山忠男先生を日本鉱物科学会から推薦することにした旨の報告があった。

12. 学会 web ページの「転載許可申請」の更新（河上 JMPS 副委員長，代理：安東庶務幹事）

河上 JMPS 副委員長の代理として安東庶務幹事より、学会 web ページの「転載許可申請」の更新の依頼があった。

- ・JMPS、岩石鉱物科学、および前身の雑誌の転載許諾許可願いに伴う業務は、学術著作権協会に委託済みである。鉱物科学会の web ページには転載許諾許可願いを事務局に送るように書かれているので、web ページの改訂が必要である。

13. 後援の依頼（安東庶務幹事）

安東庶務幹事より、議事資料に沿って報告された。

14. その他

(1) 阿部地球惑星科学連合連絡担当委員より、以下のとおり報告がなされた。

- ・IMA の Commission of Physics of Minerals から JpGU にセッションを提案した。
- ・2026 年大会は AGU と連携するため、国際セッションを増やす。7 割以上を英語セッションにしたい。日本語発表の場合は、スライドは英語にする。
- ・JpGU は 10000 人を超える会員となった。セッション提案数も増えている。地球惑星科学の分野でも会員を増やすことができることが示されている。鉱物科学会でも希望を持って進めたい。

(2) 大藤理事より、名古屋大会のアンケートの結果に関する質問があった。

これに対して、瀬戸行事幹事から「学会直後のアンケート結果は集計済みで、行事委員会では報告済み。」との返答があった。

また、大藤理事より、留学生からの意見として「英語での講演やセッション・スライドが英語なら有意義になる」という紹介があった。

II. 審議事項

第1号議案 「学会賞・奨励賞・論文賞基金」の口座を「年会用口座」として転用する件 (富岡理事・会計幹事)

富岡理事より、「学会賞・奨励賞・論文賞基金」の口座を「年会用口座」として転用することに関して提案がなされ、審議の結果、異議なく承認された。

背景：ここ数年、年会支出のためにLOCが相当な額を立替え払いする事態となっている。一時的とはいえ、公的な用途について個人がその経費を負担することは問題なので、改善策が急務である。

※今年度より特定資産「学会賞・奨励賞・論文賞基金」は一般会計に移行したので、この口座を活用（新規に口座開設はしない）。

※口座の転用について会計処理上の問題はないことを顧問に確認済み。

この件に関して、小松庶務副幹事から「キャッシュカードで運用する、ということは現金ベースで支払いをする（口座振り込みはしない）ということか」との質問があった。富岡理事から、その通りだとの返答があった。

第2号議案 名古屋大会の決算案（片山 理事）

片山理事より、名古屋大会の決算報告が提示され、概要について説明がなされた。審議の結果、異議無く承認された。

片山理事より、名古屋大会は参加者が337名であり、昨年の257名から大きく増えたこと、参加費・懇親会費・助成金・広告費が増えた結果、収入が大幅に増えたことの報告もなされた。

第3号議案 新入会承認（阿部会員幹事）

阿部会員幹事より、議事資料の通り、一般会員2名の入会申請が紹介された。入会希望者の川口さんは紹介者がなく、自己紹介文による申込みであったため、自己紹介文を提示した。審議の結果、2名とも異議なく入会が承認された。

この結果、2024年11月19日の理事会終了時点の会員総数は843名（内訳：一般会員509名、シニア会員169名、学生会員117名、永年会員39名、名誉会員9名）で、2024年9月13日の定例理事会後より6名の減少となった。

第4号議案 将来企画委員会委員会委員の指名について（井上会長）

井上会長より、内規に基づいて将来企画委員会（委員長：中村副会長）の委員が提案され、審議の結果、異議なく承認された。選出された委員は下線の通り。

委員長：中村美千彦（副会長）

副委員長：大藤弘明（理事）

委員：森下知晃（理事）、阿部なつ江（会員幹事）、鍵裕之（理事）、河上哲生（理事）、

中野伸彦（理事）、永嶋真理子（理事）

諮問に係る幹事：安東淳一(庶務幹事)， 富岡尚敬(会計幹事)，

興野純(和文誌編集幹事)， M.Satish-Kumar(英文誌編集幹事)

オブザーバー：井上 徹(会長)

第 5 号議案 火山学会とのセッション共催について（中村副会長， 将来企画委員会委員長）

中村将来企画委員会委員長より， 日本火山学会とセッションレベルでの共催を進める方向で協議を申し込むとの提案がなされ， 審議の結果， 異議なく承認された。

中村将来企画委員会委員長が提案された具体的な方針は以下の通りである。

まず鉱物科学会年会で開催している S セッション「火成作用のダイナミクス」またはその相当セッションを， 日本火山学会との共催にすることの検討を依頼する（コンビーナーの吉村氏・浜田氏には了解済み）。参加資格は， 今年度の資源地質学会や宝石学会のケースと同様（共催セッションに限り日本火山学会員は入会せず発表可能， 他セッションは聴講のみ可能）を原案とする。最初の共催が成功すれば， 火山学会の秋季大会でも対称的なセッション共催の可能性も検討してもらおう。当初協議に際しては中村副会長に一任し， 具体的な運営の検討段階に入れば大会委員会が担当する。実施時期は， 可能であれば次回の年会から実現したいが， 火山学会では， 近年このような形での共催を実施した実績がないため， 合意形成に時間がかかる可能性もあり， 慎重に進めることとする。

第 6 号議案 渡邊萬次郎賞検討 WG の設置及び委員の指名について（井上会長）

井上会長より， 渡邊萬次郎賞の検討 WG を以下の委員で構成することが提案され， 審議の結果， 異議なく承認された。

井上会長， 中村副会長， 安東庶務幹事， 富岡会計幹事， 渡邊萬次郎賞選考委員会委員

（渡邊萬次郎賞選考委員会委員：土屋 範芳（委員長）， 掛川 武（副委員長）， 小山内 康人，

黒澤 正紀(理事)， 宮脇 律郎， 安東淳一（理事）， 森下 知晃(理事)， 佐藤 努)

その他

第 7 号議案 準国石選定のワーキンググループの設置（井上会長）

井上会長より， 準国石選定のためのワーキンググループを設置することの提案がなされ， 審議の結果， 異議なく承認された。

【10】 閉会

以上の議事を終え， 18 時 15 分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、出席した会長、副会長及び監事がこれに記名押印する。

令和6年12月 日

会長 井上 徹 印

副会長 中村 美千彦 印

監事 永井 隆哉 印